



入江橋から見る琵琶湖 / 米原市朝妻筑摩

**県内景気**

現在の景気 → 生産活動 → 個人消費 → 民間設備投資 → 住宅投資 → 公共投資 → 雇用情勢 → 3か月の景気

凡例: 晴れ、晴れ一時曇り、曇り、曇り一時雨、雨

前月比: 上昇・好転、横ばい、下降・悪化

## 総じて弱含みの状態が続いている

### 県内景気の動向

**現状** 県内製造業の生産活動の現状を鉱工業生産指数でみると、原指数は7か月連続のマイナス、季節調整済指数も再びマイナスとなり、この結果、季節調整済指数の3か月移動平均値は3か月連続のマイナスとなり、全体に伸び悩み、弱含みで推移している。

需要面では、大型店売上高については、飲食料品は引き続き堅調に推移しているものの、他の品目はマイナスとなったため、全店ベースでは伸び率が大幅に鈍化し、既存店ベースでも3か月ぶりに前年を下回るなど、全体に伸び悩んでいる。一方、乗用車の新車登録台数は3か月連続のプラスとなっているが、軽乗用車は軽自動車税増税の影響などから6か月連続の大幅マイナス。また、民間設備投資の指標である民間非居住用建築着工床面積はサービス業用が大幅のプラスとなったものの、鉱工業用と商業用は大幅減で、全体では2か月連続のマイナスとなったが、トラックの新車登録台数は2か月連続の二ケタ増で堅調に推移している。新設住宅着工戸数は分譲住宅が大幅マイナスだが、持家と貸家がプラスとなったため、全体では2か月ぶりに前年を上回った。また、公共工事の請負件数は5か月連続で前年を下回っているが、金額は2か月ぶりのプラスとなった。このような中、雇用情勢をみると、新規求人倍率は前月に比べ大幅に上昇、有効求人倍率は低下したものの、6か月連続の1倍

超となっている。これらの状況をまとめると、製造業の生産活動は一部の業種で増産の動きがみられるものの、全体に弱含みで推移している。また、需要面でも投資関連で前向きな動きがみえはじめているが、全体的には引き続き力強さのない状態が続いているとみられる。したがって県内景気の現状は、一部で堅調な動きもみられるものの、総じて弱含みの状態が続いているものと考えられる。

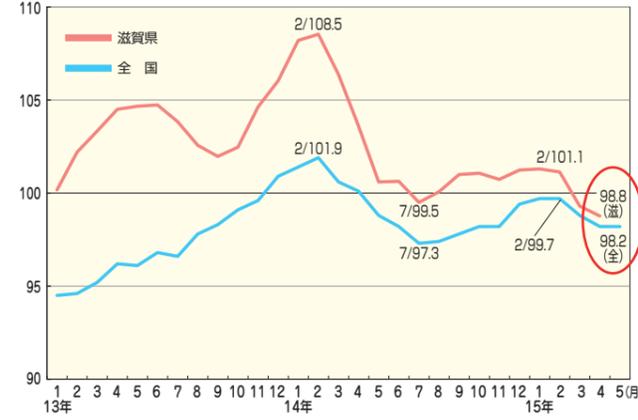
**今後の動向** 県内製造業の生産活動については、国内需要は緩やかな回復基調を受けて徐々に回復に向かうものと思われるが、海外需要は、とくに中国景気の減速による需要減退の影響が懸念され、全体的には弱含みの展開が予想される。また、需要面では、個人消費については家計収入の増加から底堅く推移するとみられるが、物価上昇や消費増税などから全体に盛り上がり欠けた状態が続くものと考えられる。一方、新設住宅着工や民間設備投資などの投資関連では慎重さが残るものの、駆け込み需要の反動減の影響は和らぎ、徐々に前向きな動きが出てくると思われる。

したがって今後の県内景気は、全体に底堅く推移すると思われるが、今しばらくは緩やかな弱含みの足踏み状態が続くものと考えられる。

### 「鉱工業生産指数」の3か月移動平均値は3か月連続のマイナス

2015年5月の県内製造業の生産状況を見ると、鉱工業生産指数(2010年=100)の「原指数」は93.4、前年同月比-7.1%で7か月連続のマイナス、「季節調整済指数」も98.2、前月比-1.3%で、再びマイナスとなった。この結果、季節調整済指数の3か月移動平均値(4月)は98.8、前月比-0.5%と3か月連続のマイナスとなった。業種別(中分類)に季節調整済指数の水準をみると、「電気機械」や「パルプ・紙・紙加工品」「食料品」「その他」などは高水準となったが、「金属製品」や「輸送機械」「窯業・土石製品」などの水準は引き続き低い。前月と比べると「はん用・生産用・業務用機械」や「パルプ・紙・紙加工品」「その他」などはプラスとなったが、「金属製品」や「輸送機械」「化学」などは大幅のマイナスとなった。

鉱工業生産指数の3か月移動平均値の推移(季節調整済値、2010年=100)



### 全店ベースの「大型店売上高」の前年比伸び率は大幅鈍化

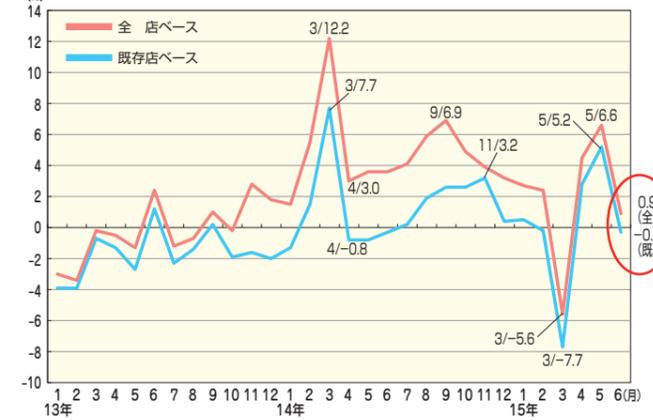
6月の「消費者物価指数(生鮮食品を除く総合/大津市/2010年=100)」は103.8で、前年同月比+1.2%、前月比+0.3%となり、前年比では26か月連続、前月比でも4か月連続のプラスとなっている。これは、酒類やガス代、シャツ・セーター類などは低下したものの、肉類や菓子類、調理食品、外食、家庭用耐久財、家事用消耗品、教養娯楽用耐久財などで大きく上昇したためとみられる。また、エネルギー(電気代、ガス、灯油、ガソリン)は引き続き高水準ながら前年比では5か月連続の低下となっている(121.6、前年同月比-4.7%、前月比+0.2%)。また、「可処分所得(大津市・勤労者世帯)」は7か月連続のプラスとなり(前年同月比+18.7%)、「家計消費支出(同)」も4か月連続のプラスとなっている(同+26.9%)。

このような所得・消費環境のなか、6月の「大型店売上高(全店ベース=店舗調整前、対象店舗数は101店舗、前年は100店舗)」は23,019百万円、前年比+0.9%で、3か月連続のプラスとなったものの、伸び率は大幅に鈍化した。品目別にみると、ウエイトの高い「飲食料品」は25か月連続で増加しているが(同+3.0%)、衣料品をはじめ他の品目ではマイナスとなり伸び悩んだ。また、「既存

店ベース(=店舗調整後)」の売上高も飲食料品を除き他のすべての品目でマイナスとなり、全体では3か月ぶりに前年を下回った(同-0.3%)。

6月の「乗用車新車登録台数(登録ナンバー別)」をみると、「小型乗用車(5ナンバー車)」(1,447台、前年同月比+3.7%)、「普通乗用車(3ナンバー車)」(1,652台、同+13.9%)ともに前年を上回ったため、2車種合計では3か月連続のプラスとなっている(3,099台、同+8.9%)。一方、「軽乗用車」は6か月連続かつ大幅のマイナスとなっている(2,031台、同-26.7%)。これは、軽自動車税増税の影響とこれに伴う駆け込み需要の反動減によるものとみられる。

大型店売上高の推移(前年同月比)



### 新設住宅着工戸数は2か月ぶりのプラス

6月の「新設住宅着工戸数」は718戸、前年同月比+5.7%で、2か月ぶりのプラスとなった。利用関係別でみると、「持家」は354戸、同+8.9%(大津市63戸など)で2か月連続、「貸家」も274戸、同+36.3%(彦根市107戸、守山市55戸など)で3か月連続のそれぞれプラスとなったが、「分譲住宅」は74戸、同-51.6%(大津市18戸など)で前月に続き大幅のマイナスとなっている。分譲住宅の内訳をみると、「一戸建て」は前年を大幅に下回り(74戸、前年差-55戸)、「分譲マンション」は前月に続き申請がなかった(0戸、同-24戸)。なお、「給与住宅」は16戸となった(彦根市16戸など)。

新設住宅着工戸数の推移(前年同月比)

